

STRUM

シュトゥルム

第46号

令和2年1月13日発行

2020年の年明けから早くも2週間が経とうとしていますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。本年もTRAUBENをどうぞよろしくお願い致します。オリンピックイヤーとなり、街では外国の方をよく見かけるようになりました。伊都さんのコンサートにも外国のお客様がチラホラ…留学時代のお知り合いかもしれません、ますます海外を身近に感じられるようになってきました。今年もまた多くの方々との新しい出会いがありますようにと願う、新年の幕開けです。



近況報告

第17回目のリサイタルが無事に終わられましたこと、心よりお礼申し上げます。2003年第1回目のリサイタルを始めた時には、2020年なんてはるか先の未来で、オリンピックが行われることも、イギリスがEUから抜けることが火の粉として降りかかってくるなんて想像だにせず、日照時間が3時間、鼻水が凍るマイナスのウィーンの冬を抜け出して、まだ木の匂いも新しいみなとみらいホールで、控室から、1階上のホール袖に向かうピアノ運搬用の、広い、開閉に時間のかかるエレベーターの中で、扉がゆっくり時間をかけて閉まるのを見ながら、ステージに早く上がって弾きたい気持ちと、緊張で逃げ出したいような、焦燥感と喜びが混ざって、武者震いが全身を駆けめぐったこと、その感覚は今でもまったく変わらず、昨年12月、だいぶ年季が入り、音をたてて少しきしみながら閉まるようになったエレベーターの扉の中で、ああ今年も演奏をしていると、体中の血がざわざわとステップを踏んでいるような、嬉しさに包まれながら、渋い木の色に変わった見慣れたステージに立ったその喜びは音楽家冥利につきると感じています。

今回は長年構想しつつ、先送りになっていた、タルティーニの悪魔のトゥリルソナタが、「悪魔のトゥリル」らしく（憑りつかれたようにトゥリルが続く）演奏できたことが私の中の一番の収穫で、いまだに早いパッセージを弾こうとすると、やたらに指が動いてしまって止まらないという、後遺症が続いていて、悪魔の置き土産かと思っています。

2020年は、ヴァイオリンの生音、響きを子供たちに聴いてもらいたいなどの思いを形にすべく、1月は幼稚園、3月には子供も聴ける本格クラシックコンサートを企画しています。その他映像やアロマとのコラボなど新しい形の演奏活動など、働き方改革ならぬ、演奏活動改革を指針に、でもクラシック音楽の矜持は守りつつ、ヴァイオリンの音を届けていけたらと願っておりますので、演奏を聴いて頂くことができましたら幸いです。

【伊都】

第17回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

12月にしては暖かい一日となった23日、恒例のリサイタルがみなとみらいホール小ホールでイギリスから帰国中の松尾久美さんをピアニストに迎え開催されました。これを聴かなければクリスマス、お正月が来ない！と思うお客様も多いのではないのでしょうか。以下、伊都さんのコメントです。

悪魔のトゥリルソナタを「悪魔的」に「魅力的」にスパークさせたかったのが私の中の目玉で、そして、ようやく親近感の湧いてきた日本の作曲家の巨匠、武満徹の「妖精の距離」が皆に身近に感じられる感覚の曲だったと言ってもらえて、私も日本人に戻ってきたかと思ったり、学生の超絶技巧曲の頂点、ワックスマンのカルメン幻想曲が意味が分からないほどテクニックを要求されたけれど、なんとか「やってみました！どうでしょう？」と言えるぐらいに弾けたことが、日本を拠点に、マイペースながらも色々なことに挑戦を始めた2019年の集大成になったかなと思っています。

確かに最後の曲「ワックスマン：カルメン幻想曲」は今まで伊都さんが演奏したどのカルメン幻想曲より息を呑む凄まじい迫力！曲が終わった後の「おっ！」というどよめきと鳴り止まない拍手がお客様の評価を物語っていました。伊都さんはウィーン音大の頃からウィーン風の曲、ジプシー調の曲、そしてこのカルメンのメロディーを弾くと、先生方に「なんでヨーロッパ人より地元っぽく弾けるんだろうね」と首をかじげられたとか。伊都さん自身も、自分のキャラじゃないのに何故か「弾くと血が騒ぐ」のだそうです。伊都ファンには納得！の一年の締めくくりでした。

横浜音祭り 2019 公募サポート事業

Violin infinity

2019年10月22日 横浜市イギリス館

YOKOHAMA
OTOMATSURI

三年に一度、横浜で開催される日本最大級の音楽フェスティバル「横浜音祭り」に伊都さんが独自の企画を提出、厳しい審査の末選ばれ、馴染みのあるイギリス館でのコンサートが実現しました。絵や写真、詩、津軽三味線、アロマとヴァイオリンのコラボで来場者を楽しませてくれましたが、特に、今まで聴いたことのなかった津軽三味線とのセッションは、心に沁み入る素晴らしいものでした。伊都さんにはその国の土着の魂を感じて表現する才能があることを、ここでも証明してくれたようです。

親子で聴ける本格クラシックコンサート (仮称)

3月28日 (土) 13:00 開演

Salone Fontana

東京都 世田谷区 祖師谷 4-9-24

一般 3500円 学生 2000円 親子割 -500円

リサイタルで何度か共演したピアニスト
村上明子さんがプロデュースするコンサートに
伊都さんが出演します。

問い合わせ：加納伊都リサイタルオフィス
info@itokanoh.com



歌う瞑想

4月7日 (火) 19:00 open
19:30 start

横浜エアジン (横浜馬車道)

Charge: ¥2500 (予約¥2000)

<http://airegin.yokohama/>

インドの楽器ハーモニウムとドラムスと共に、インドの伝統音楽「キルタン」(サンスクリット語で「歌う」という意味があります)を、イギリス在住の伊都さんの友人が詠じます。そこに伊都さんのヴァイオリンがどう関わるのか? 興味深いですね。ドラムスの方は沢田研二さんのバックミュージシャンだそうですよ。東洋の神秘にご興味のある方は是非どうぞ!

編集後記 今号は誌面の都合で DVD Classic Collection はお休みしますが、一応「エディット・ピアフ」を借りて観ました。ピアフは貧しい旅芸人の子に生まれ、母に捨てられ、父方の祖母が経営する娼館に預けられ、路上で歌を歌ってお金を稼ぐ少女に成長したところで才能を見出されます。世に出てからも、気まぐれで下品、気性が激しく、酒やドラッグに溺れ波乱の生涯を47歳で閉じますが、歌手としては、心の奥底から湧く感情を表現できる稀有な存在です。/ただ上手に歌える、上手に弾ける人は世の中にいっぱい居るでしょうが、音楽を通して人の心に喜怒哀楽を届け、心を動かすことができるというのは凄いいことだなぁ、と伊都さんの演奏を聴くにつけ、いつも感じます。ジャンルに捉われず色々な国の色々な表現に触れることで、伊都さんの引き出しは今年もまた増えていくことでしょう。〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会 T R A U B E N
〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email: trauben@itokanoh.com
Homepage: itokanoh.com